

## □■ 第4章 基本計画

---

## 基本目標 1 男女共同参画社会の実現を目指した意識づくり

男女共同参画社会は、性別にかかわらず「人」として尊重され、あらゆる分野において対等なパートナーとして責任を分かち合い、自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮することのできる社会です。

男女共同参画の視点に立った法律や制度は整備されてきているものの、固定的な性別役割分担意識（「男性は仕事、女性は家庭」など、性別で役割を押しついたり、向き不向きを決めつけたりする意識のこと。）や性差に対する偏見、またそれらに起因する社会制度や慣行・慣習などは、依然として家庭や職場、地域など社会のあらゆるところに根強く残っています。固定的な性別役割分担意識は、女性の社会参画の機会を妨げるばかりでなく、男性にも無理を強いることにもなり、結果として、男女ともに自分らしく生きることに制約を与えてきたといえます。

市民一人一人が自分の暮らしや働き方、意識を見つめなおし、男女共同参画社会が、男性にとっても女性にとっても暮らしやすい社会であるとの気づきにより、固定的な性別役割分担意識や性差に対する偏見の解消、それらに起因する慣習・慣行等の見直しが進むなど、気運の醸成を図るとともに、男女共同参画の意識の浸透に向けた取り組みを推進していきます。

## 重点目標1 男女共同参画に関する正しい理解と意識改革

- 施策の方向
- 1 男女共同参画の理解を深めるための広報・啓発
  - 2 男女共同参画の視点に立った制度や慣習・慣行の見直し
  - 3 メディアにおける男女の人権の尊重
  - 4 男性にとっての男女共同参画

## 重点目標2 男女共同参画を推進する教育・学習の充実

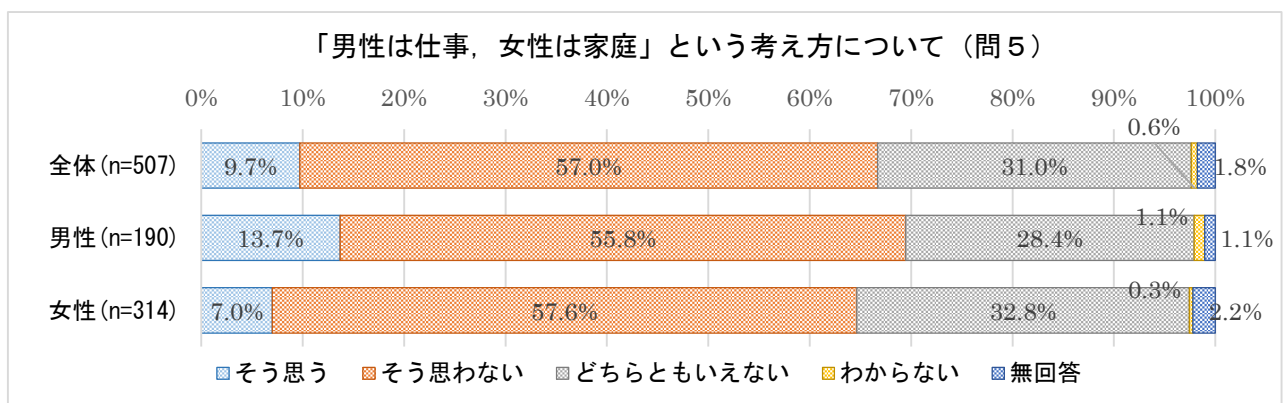
- 施策の方向
- 1 家庭や地域における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実
  - 2 学校における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

## 重点目標 1 男女共同参画に関する正しい理解と意識改革

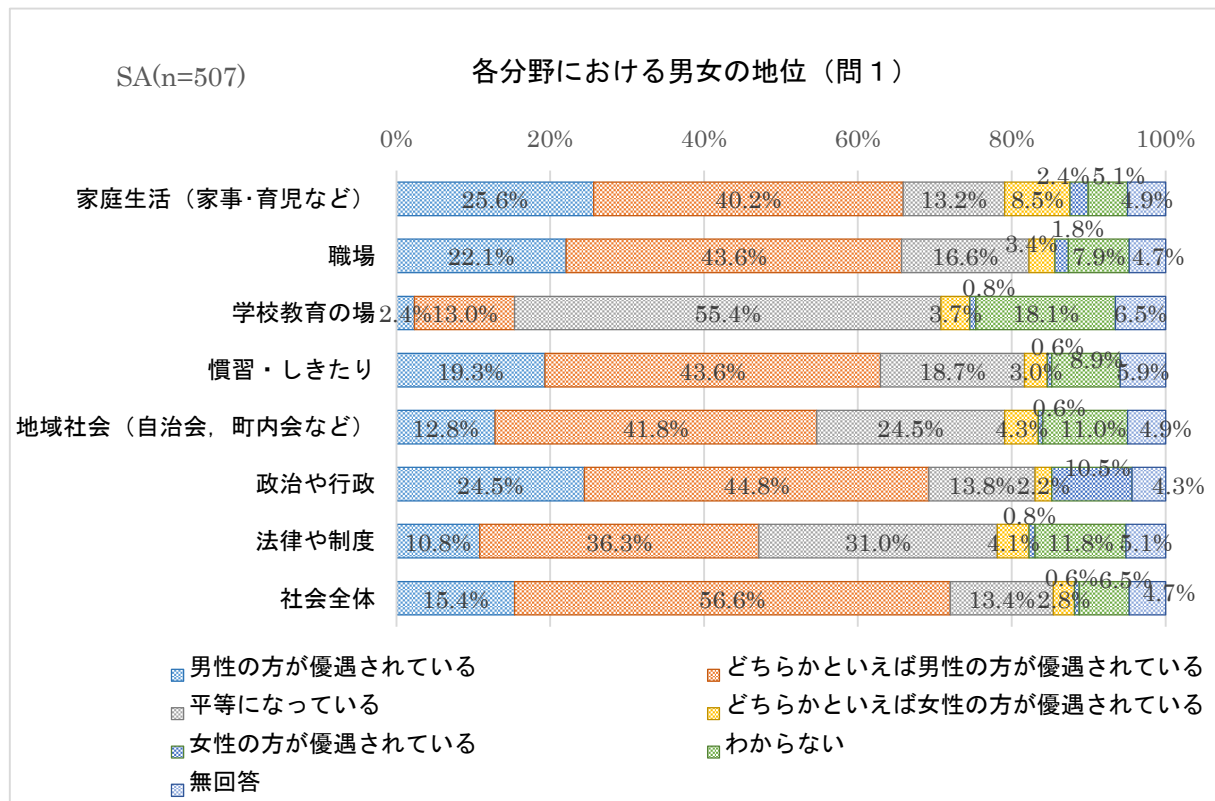
### ◆ 現状と課題 ◆◆◆

平成27年男女共同参画市民意識調査（以下「市民意識調査」という。）において、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてたずねたところ、「そう思う」と答えた方は、男性の割合がわずかに上回っていますが概ね1割程度で、男女ともに6割弱の方が「そう思わない」と答えており、「どちらともいえない」と答えた方は3割でした。一方で、各分野における平等感については、学校教育の場を除き「男性が優遇されている※」と答えた方が6割を超え、社会全体では72.0%の方が「男性の方が優遇されている※」と感じています。

※「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む。



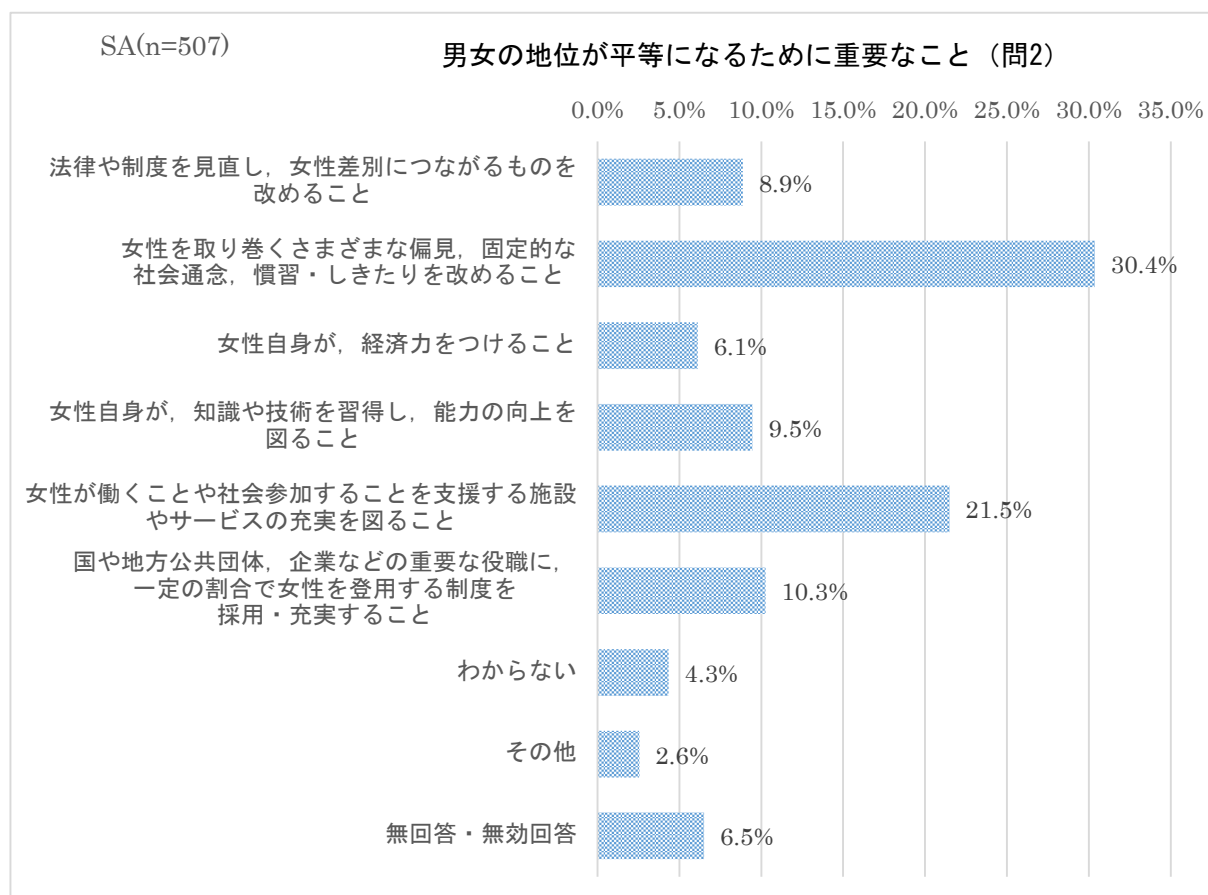
【平成27年市民意識調査】



【平成27年市民意識調査】

意識としては、これまでの男性、女性の固定的な役割にとらわれることはないと考えつつも、家庭や社会など現実においては、慣行や慣習、固定観念などにより男女の不平等感が強く残っていることがうかがえます。

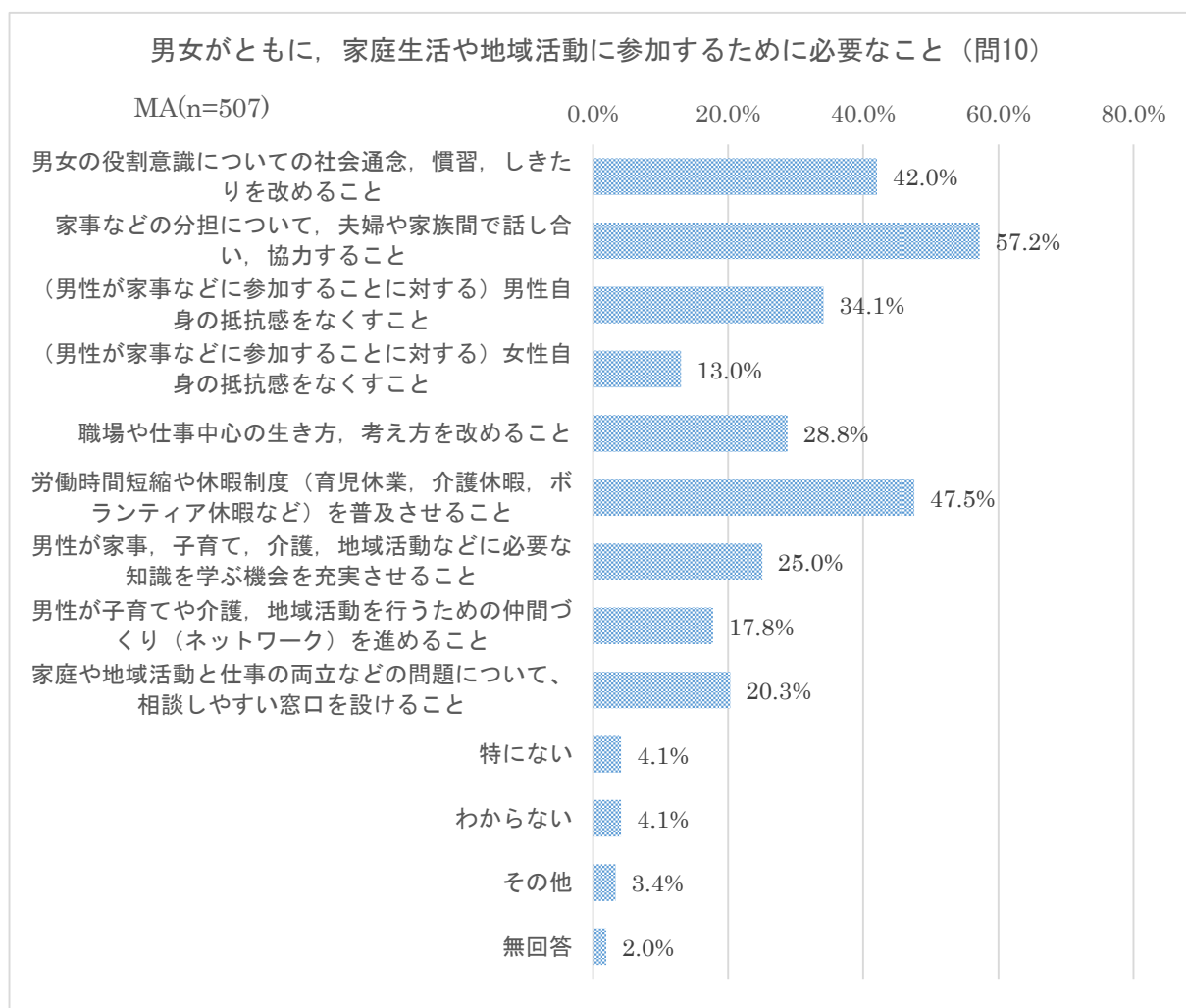
市民意識調査において、「男女の地位が平等になるために重要なこと」をたずねたところ、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(30.4%)が最も多くあげられていることからそういった状況がうかがえます。また、次いで「女性が働くことや社会参加することを支援する施設やサービスの充実を図ること」(21.5%)があげられ、女性が社会参加するための環境の整備も求められています。



【平成 27 年市民意識調査】

「男女が共に家庭生活（家事、育児、介護等）や地域活動に積極的に参加するために必要なこと」については、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が最も多く 57.2%で、「男女の役割についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が 42.0%、「(男性が家事などに参加することに対する) 男性自身の抵抗感をなくすこと」が 34.1%でした。男女間の相互理解と協力、男女の意識、とりわけ男性の意識を変えていくことが求められています。

また、これまで市で開催してきた男女共同参画に関する啓発事業への参加者の大半は、女性が占めており、年代で見ると 60 代以上の方が大半となっています。性別を問わず幅広い年齢層に、男女共同参画の意識が浸透していくよう、創意工夫による啓発活動が大切です。



【平成 27 年市民意識調査】

男女共同参画は、女性だけや子育て世帯だけなど、特定の人を優遇しようとするものではありません。性別や世代、置かれている状況にかかわらず、誰もが自分らしく生活できる社会を実現していくものです。

固定的な性別役割分担意識については、男性だけがその意識を変えていけばいいわけではありません。そうした意識は、女性の中にも存在しており、それらを当然のこととして許容し、男性に対して、仕事をし、一家の主として家庭を支えてほしいと考える女性がいることも事実です。また、世代によっても、そうした固定的な性別役割分担意識の中で生活してきた年配の世代と男女平等に対する教育が取り入れられてきた若い世代とでは、意識や行動に差がありますし、同性の間においてでさえも、その置かれている環境によって意識の差があります。人の中に形成された意識は、それまでの経験や育った環境、受けた教育に深く根ざしているため、すぐに変えていくことは容易ではありません。

男女共同参画を推進する上で大切なことは、自分には関係ないという人を作らないことです。誰もが身近な自身の問題として関心を持ち、お互いを尊重し合い、実践していける環境が必要です。そのためには、啓発活動を行う際において、性別や世代、それぞれの置かれている立場にかかわらず、それらが正しく理解されるよう十分に配慮することが必要です。そうした啓発活動を通して、社会の一員として関心を持ち、行動に移せる市民をどれだけ増やしていけるかが求められています。

## ■□■ 目 標 ■□■

男女共同参画社会を正しく理解し、一人一人が自分自身のこととして関心を持ち、互いを尊重し、性別にとらわれることなく、自らの意思でライフスタイルを柔軟に選択できる社会を目指します。

### 施策の方向1 男女共同参画の理解を深めるための広報・啓発

男女共同参画について、誰もが身近な問題として意識を高め、またその意義があらゆる世代に正しく理解されるよう、わかりやすい言葉を用い、広く普及・啓発を推進するとともに、性別や世代、あるいはその置かれている環境によって異なる課題を調査・研究し、それらの解消に向け、対象者を絞った普及・啓発事業の取り組みも必要です。

#### 【具体的な施策】

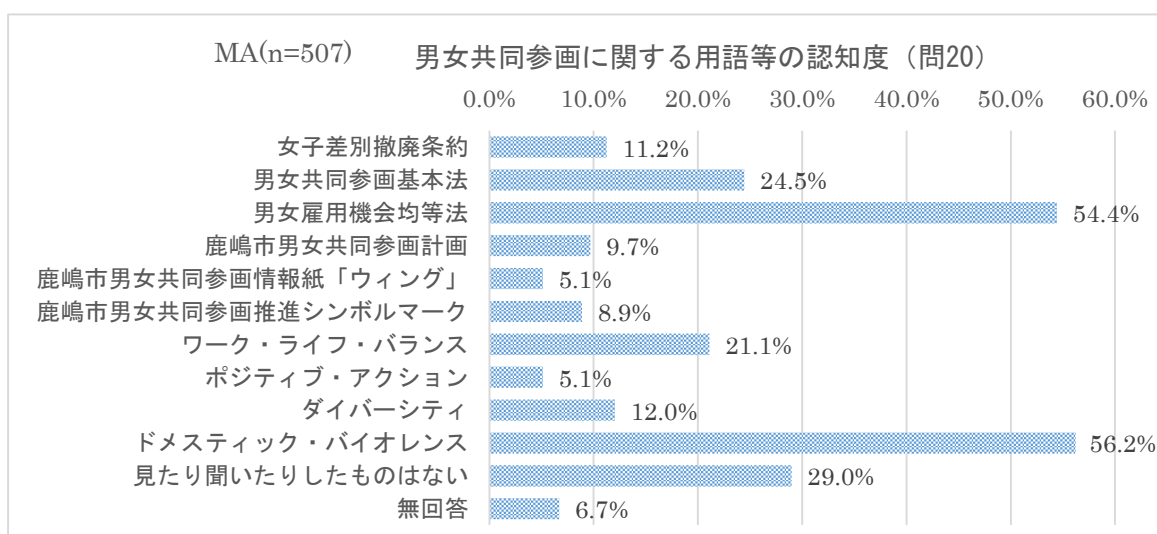
- 理念・法制度の周知
- 男女共同参画フォーラムなど意識啓発事業の実施
- 男女共同参画情報紙「ウイング」の発行
- 男女共同参画に関する市ホームページの充実
- 広報かしまやFMかしま等を活用した広報活動

#### 《指標項目》

1. 「男女共同参画社会」という言葉を正しく理解している人の割合を増やします。

現状                      5年後  
 ※24.5%                  →    35.0%

※市民意識調査における「男女共同参画基本法」の認知度の割合を参考値として使用しています。



## 施策の方向2 男女共同参画の視点に立った制度や慣習・慣行の見直し

固定的な性別役割分担意識は、男性の中にも女性の中にも根付いており、そうした意識や性差に対する偏見に起因する社会制度や慣習・慣行は、男女共同参画社会を実現していくうえで大きな障害となっています。また、近年、男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度の整備は進んではきているものの、あらゆる分野における男女の不平等感、依然として強く存在しています。

こうした状況を解消していくためには、性別や年齢を問わず、一人一人が身近な問題としてとらえ、あらゆる分野において平等に扱わないものについて、見直されるべきとの気づきが市民の中に広がり、それらを行動に移していく必要があります。

### 【具体的な施策】

- 男女共同参画に関する情報と学習機会の提供
- 男女共同参画の視点に立った施策・サービスの見直し

#### 《指標項目》

2. 「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方について、「そう思わない」と回答する人の割合を増やします。

現状		5年後
57.0%	→	70.0%

3. 社会全体で「男女の地位は平等」と感じる人の割合を増やします。

現状		5年後
13.4%	→	20.0%



### 施策の方向3 メディアにおける男女の人権の尊重

様々なメディアから発信される情報は、一人一人の人生観や価値観などに影響を与えるとともに、日常的に見聞きする表現が無意識のうちに人々の意識形成に影響を及ぼしています。そのため、そうした影響を、情報を発信する側が自覚し、性別に関して偏った表現や固定的な男女の役割をイメージさせる表現となっていないかなど、人権を尊重し、男女共同参画の視点に立った表現となるよう配慮する必要があります。とりわけ、行政が作成する広報紙やホームページ、掲示物等は、公共性が高いため、男女共同参画の視点に立った表現となるよう意識し、点検していくことは当然のことですが、表現の自由を尊重した上で、団体や学校、事業所などあらゆる主体が発行する刊行物等についても、そうした取り組みが継続・拡大するよう働きかけを行います。

一方で、市民一人一人が、メディアからもたらされる情報をそのまま受け止めるのではなく、主体的に読み解き、情報を活用し、自己発信する能力を育成していくことも必要です。

#### 【具体的な施策】

- 広報紙等、市が発信する文書等における男女共同参画の視点に立った表現の促進
- あらゆる主体が情報を発信する際における、男女共同参画の視点に立った表現の自主的な取り組みを促進するための情報提供と働きかけ
- 学校等におけるメディア・リテラシー※向上のための情報教育の推進

※メディア・リテラシー…メディアを主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じコミュニケーションする能力を構成要素とする複合的な能力のこと。

## 施策の方向 4 男性にとっての男女共同参画

男女共同参画は、女性の問題としてとらえられがちで、多くの男性は、関心が低い状況です。男女共同参画社会を実現するということは、女性を優遇するということではなく、性別や世代、置かれている環境にかかわらず、誰もが自分らしくいきいきと生活できる社会を実現することです。

これまでの長時間労働をはじめとする男性中心型労働慣行等は、男性の子育てや家事、介護などの家庭生活や自己啓発、地域コミュニティなどの地域活動への参画を阻害したり、過度に肉体的・精神的負担を与えるなど、男性自身の心身の状態にも影響を与え、男性にとっても自分らしくいきいきと生活していくことを阻害する要因の一つになっています。

このため、男性自身が男女共同参画を自分のこととして関心を持ち、正しく理解し、働き方や暮らし方、意識を見直し、自らの意思でライフスタイルを柔軟に選択できるよう、意識啓発を行っていくことが重要です。

### 【具体的な施策】

- 男性にとっての男女共同参画の意義についての広報・啓発
- 若年男性のライフプランニング支援のための情報と学習機会の提供
- 男性の家事や育児への参画を推進するための各種講座の開催
- 家事や育児、介護、地域活動に参加する男性ロールモデル\*の情報収集と提供

\*ロールモデル…具体的な行動や考え方の模範となる人物のこと。

### 《指標項目》

#### 4. 男女共同参画フォーラム等の啓発事業における男性参加者の割合

現状	5年後
14.6% ※	→ 30.0%

※平成26年度男女共同参画フォーラムにおける参加者の割合

## 重点目標 2 男女共同参画を推進する教育・学習の充実

### ◆◇◆ 現状と課題 ◆◇◆

人は、家庭・学校・地域・職場などあらゆる場面において、様々な人とかかわり、多くの影響を受け、気づきや学びを繰り返しています。なかでも、人の意識は、乳幼児期からのかかわりの中で育まれていくものであり、男女共同参画社会の実現のためには、家庭はもちろんのこと、子どもの成長を取り巻く地域社会すべての人が男女共同参画の視点を持ち、行動していることが必要です。特に子どもにとっての家庭は、最も身近なロールモデルになります。そのため、家庭内において、男女共同参画の視点が取り入れられ、男女が共に理解し協力し合い、それぞれの役割と責任を果たし、様々な分野で自分らしくいきいきと行動していることが大切です。また、次世代を担う鹿嶋っ子を学校・家庭・地域で連携して育てようとするときに、そこで活動する大人たちの間にも男女共同参画の意識が浸透し、自分らしくいきいきと生活している姿を示していることも必要です。

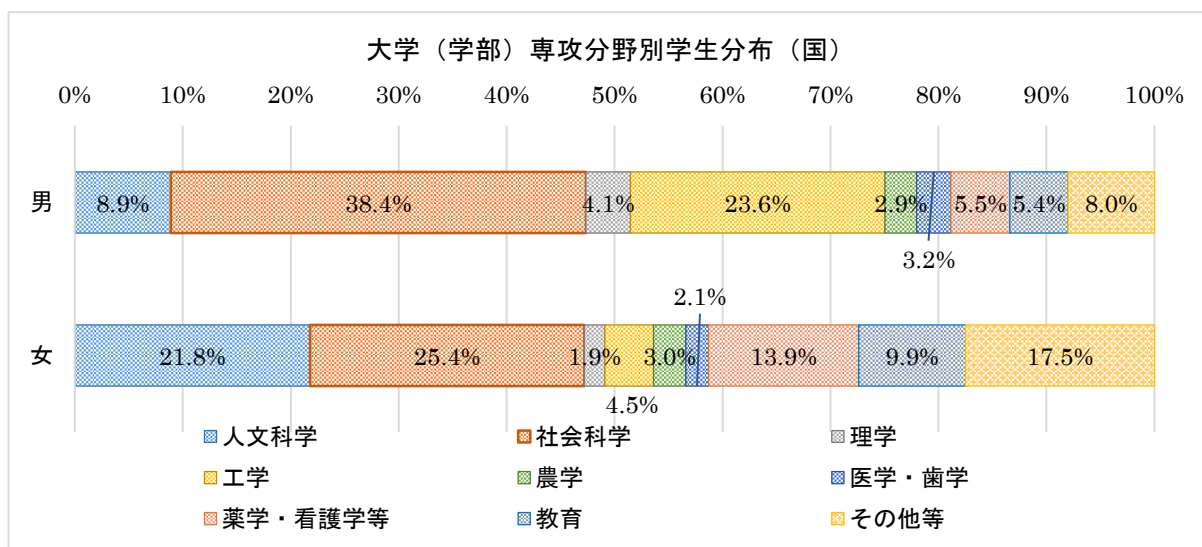
市民意識調査において、「あらゆる分野における男女の地位の平等」についてたずねたところ、「学校教育の場」において、男女平等が最も進んでいるという結果でした。しかしながら、子どもの教育の第一義的責任を担う家庭における平等は、固定的な性別役割分担意識などを根底に不平等感が根強く存在しています。また、地域社会や働く場においても同様に男女の不平等感が強い状況で、多くの女性が就職など学校を卒業後に不平等な現実と直面しています（P34「各分野における男女の地位」）。

本市の高校卒業後の進路を見ると、大学への進学率は、平成 26 年度で男性は 54.3%、女性は 45.4%で、男性の方が 8.9%高い状況です。女性は、全体の 5.4%が短期大学へ進学しており、これをあわせると、女性の大学等進学率は 50.8%となっています。女性の大学等への進学率は、長期的には増加傾向にありましたが、近年では、短期大学への進学率が減少傾向にあり、専門学校（専門課程）や就職者が僅かですが延びている傾向にあります（P16・17「高校卒業後の進路の状況」）。

平成 26 年度学校基本調査によると、我が国における大学の専攻分野を男女別に見ると、女性は男性に比べ、人文科学、薬学・看護学等、教育分野に多い傾向にあり、理学、工学分野が少ない傾向にあります。特に女性は、将来の就業を見据えて進学を選択している傾向が伺えます。

一方で、進路選択の際には、本人の意思決定だけでなく、保護者や教員など身近な人から影響を受ける場合があります。家庭や学校などにおいて、女性はこの分野に進んだ方がよい（進まない方がよい）とかこの職業を選んだ方がよい（選ばな

い方がよい)といったイメージや慣行などが、保護者や教員等の言葉や態度などを通して、無意識のうちに子どもたちに影響を与えないよう、保護者や教員等周囲の人の理解促進を図っていくことも必要です。



※その他等は「家政」、「芸術」、「商船」、「その他」の合計。

【平成 26 年度学校基本調査】

学校教育においては、生きる力と豊かな心を育むため、学校の教育活動全体を通じて、道徳教育の充実を図るとともに、産業・経済の構造的変化や雇用の多様性・流動化等の変化の中であって、夢を持ち、性別によって個人の可能性を制限されることなく、将来に向けて自立し、社会の中で個人の能力や個性に合った自分らしい生き方が選択できる力や態度が身に付くよう、総合的なキャリア教育・職業教育を推進していくことも大切です。そうしたキャリア教育の推進においては、社会・経済・雇用などの基本的な仕組みや税金・社会保険・年金などの知識、政治参加、男女共同参画社会の意義や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの理解の促進も重要です。

しかしながら、それらのすべてを学校教育の中で教員が指導することは難しいです。そのため、学校教育等においてキャリア教育を推進するにあたっては、大学や企業・事業所、関係機関をはじめ、社会人・職業人としての知識や経験豊富な地域人材など、多様な主体と連携し、子どもたちが進路選択や職業選択などにおいて、将来のイメージができるような取り組みの充実が求められています。

※キャリア教育…一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度（①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力など基礎的・汎用的能力。）を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくこと。）を促す教育。

人の意識は幼い頃からのかかわりの中で育まれていくため、早い段階から男女共同参画の意識を育てていくことは大切です。

子どもを取り巻く学校や家庭、地域社会などあらゆる教育の場において、そこに携わるすべての人に男女共同参画の理念が理解されるよう、家庭や地域、学校や職場などあらゆる場において、また、人生の各段階に応じて、男女共に一人一人が自立と思いやりの意識を育み、個人の尊厳と男女共同参画の理念を推進する教育・学習のなお一層の充実が必要です。

また、学校教育においては、児童生徒の発達段階に応じ、学校教育全体を通じ、人権の尊重、男女の平等や相互理解と協力の重要性、家族や家庭生活の大切さなどについての指導を推進するとともに、一人一人がその生き方や能力、適性を考え、主体的に進路を選択することができるようライフプランニングを踏まえた総合的なキャリア教育を推進します。

## ■□■ 目 標 ■□■

男女共同参画の意識を育むため、将来に向かって自立し、個人の能力や個性を活かし、自分らしい生き方が選択できる力が身につくよう、家庭・地域・学校など、あらゆる場面における教育や学習の充実を図ります。

### 施策の方向1 家庭や地域における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

子どもの手本となる両親や家族、地域社会すべての人が、人権を尊重し、男女共同参画を正しく理解し、行動することができるよう学習の機会や情報を提供します。

#### 【具体的な施策】

- 男女共同参画に関する広報、啓発活動の推進
- 男女共同参画の視点に立った、家庭や地域における教育力を養うための学習機会や情報の提供
- 社会人・職業人としてのキャリア形成を支援する情報と学習機会の提供

### 施策の方向2 学校における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

学校における教育において、子どもを指導する立場にある教育に携わる者が男女共同参画の理念を正しく理解した上で指導にあたるよう、意識啓発や研修の機会の確保等に努めるとともに、児童生徒に対し、人権の尊重、男女の平等、相互理解・協力など、男女共同参画の理解促進を図るための教育・学習の一層の充実を図ります。

また、将来に向けて、自己肯定感を高め、自立の意識を育み、一人一人の個性や能力を尊重し、児童生徒が主体的に学び、考え、行動する姿勢を育むなど、自分の生き方を自らの力で選択することができるよう学校内外におけるキャリア教育を推進します。

#### 【具体的な施策】

- 教職員等に対する人権尊重や男女共同参画に関する研修等の取り組みの推進
- 児童生徒の発達段階に応じた男女共同参画の視点に立った道徳教育・学習の充実
- 学校内外におけるキャリア教育の充実